



## ナフサって？

◆石油製品のひとつ／身近な製品の原料に

**Q－最近よく話題になる「ナフサ」って何かな。**

A－ナフサは、原油を沸点の違いを利用して蒸留する中で、ガソリンや灯油、軽油などとともに取り出される石油製品のひとつです。そのまま燃料として使うより、プラスチックなどを作る石油化学製品の原料として、重要な役割を担っています。

**Q－ナフサから何が作られるの。**

A－ナフサは高温で分解され、エチレンやプロピレンなどの基礎化学品になります。そこからさらに化学反応を経て、プラスチック製品、食品包装材料、合成繊維、ゴム、洗剤、塗料、接着剤など、私たちの暮らしに身近な製品の原料へと姿を変えていきます。

**Q－今、注目されているのはなぜ。**

A－背景に中東情勢があります。日本は石油化学製品の原料として中東に頼る面が大きく、情勢が悪化すると、必要なナフサが思うように入ってこなくなる恐れがあります。原料の確保が難しくなれば、製品の値上がりだけでなく、生産そのものにも影響が及びかねません。「石油製品」と聞くとガソリンや灯油を思い浮かべがちですが、実は暮らしの隅々にナフサ由来の製品が浸透しています。

**Q－富山とはどんな関係があるのかな。**

A－富山県は「くすりの富山」として知られ、医薬品産業が地域の重要な柱です。薬には、容器や包装にプラスチックが使われています。ナフサの確保は地元の産業・雇用に直結する問題。全国的な関心事であると同時にとても身近な課題といえます。

**Q－これからどうなるの。**

A－石油化学製品は必ずしもナフサだけで作られるわけではなく、LPG（液化石油ガス）やエタンなど別の原料を使う動きもあります。調達先の分散や代替原料の活用を進め、安定してモノを作れる体制を整えることが、今後ますます大切になりそうです。

（この連載は北陸経済研究所の奥田喜治が担当しました）

